

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年3月30日現在

今月の重点活動

■アスパラガス 羽島市アスパラガス産地拡大プロジェクトチーム会議を開催

3月18日に、第1回羽島市アスパラガス産地拡大プロジェクトチーム会議を開催した。今年度のアスパラガス産地戦略会議でまとめた産地振興プロジェクトの項目について、平成28年度のアスパラガス産地拡大に向けた活動内容を各関係機関から発表してもらい、今後の取り組みなどの検討を行った。

会議終了後には、春芽を収穫中のハウスを視察し、収穫・出荷状況を確認した。また、今年度導入したアスパラガス専用の選別機の使用法や性能なども確認した。

農業普及課では、今後も精力的に産地振興を進めるための産地拡大プロジェクトチーム活動を活発化させ、進捗状況の確認や目標達成に向けた進行管理などを支援していく予定である。
(園芸産地支援第一係・藤田文彦)



【プロジェクトチーム会議の様子】

活力ある新産地づくり

■春ブロッコリー 定植作業を実施

J A ぎふ春ブロッコリー研究会では、2月4日～3月17日にかけて定植作業が行われた。今年度は降雨が多く、定植作業の遅れが心配されたが、早めに畝立て作業を行っていたことから前年並みに進んだ。

農業普及課では、苗の馴化や病虫害対策について指導しており、今後も定期的に現地研修会を開催し、品質向上を目指すこととしている。
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【定植の風景】

売れる農畜産物づくり

■水稲 水稲種子の栽培講習会を開催

羽島市では、主要農作物種子法に基づき、水稲品種「ハツシモ岐阜SL」の種子生産を行っており、平成27年産種子では3年ぶりに合格種子を出すことができた。

3月15日に、平成28年産水稲種子に向けた栽培講習会を開催し、農業普及課が講師となり、平成27年産を振り返り、合格種子となった生産者に共通する栽培管理を紹介し、今後の生産に活かしていくよう助言した。また、これらを踏まえた平成28年産種子栽培暦に基づき、栽培管理のポイントとなる点などについて説明した。

平成28年産では、さらに多くの組合員が合格種子となり、岐阜県内のハツシモ生産者に優良（充実度、無病、発芽率）な種子が供給できるよう、今後も栽培支援を行う予定である。

(地域支援第二係・山田隆史)

■小麦 試験ほ場巡回

農業普及課では、小麦「タマイズミ」のタンパク向上・省力化のための全量基肥肥料の試験ほ、難防除雑草イタリアンライグラス対策のための除草剤の試験ほを設置している。

2月26日に、関係機関と現地ほ場を巡回し、肥料と除草剤の実証効果を確認した。肥料試験では葉色を維持していることを確認し、除草剤試験ではイタリアンライグラスの発生量が少なく、どちらの効果も期待された。農業普及課では、今後も調査を継続し、暦導入等に向けた検討を進めることとしている。

(地域支援第三係・岡田 隆史)



【ほ場巡回の様子】

■いちご 中間目揃え会を開催

3月1日に、本巣地域いちご部会は本巣カンントリーエレベーターにおいて、岐阜市いちご部会はJAぎふ合渡支店において、中間目揃え会が開催された。

気温上昇に伴い、出荷品の着色基準が変更されるため、いちごの現物を用いて目揃えが行われた。

農業普及課から、春はハウス内環境が急激に変化するため、温度管理やかん水に気を付けるなど、栽培管理のポイントについて指導した。今後とも、栽培研修会や個別巡回を通じて、高品質いちごの生産に向けた指導を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・渡辺新一、遠藤るみ子)



【栽培指導の様子】

戦略的な流通・販売

■えだまめ 産地戦略会議を開催

3月3日、JAぎふ、岐阜市、JA全農岐阜、県農産園芸課の担当者による第7回えだまめ産地戦略会議を開催した。

まず、農業普及課から、2月に西郷支店で行った農地賃借の実態調査の結果報告を行った後、今後の農地集積の進め方について検討をした。農地集積については、借り手の要望だけでなく、貸し手の本音と建て前を理解し、慎重に進めるべきとの意見が出された。また、今後の農地集積の進め方については、参集メンバーを広げて、別途協議することとなった。

さらに、農業普及課から、事前にJA担当者と協議した産地振興プロジェクトの平成28年度目標とタイムスケジュール案について説明し、意見交換を行った。会議で出た意見を踏まえ、若干の修正を行い、計画案どおり実行することを決定した。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【産地戦略会議の様子】

多様な担い手の育成・確保

■わかばマーク研修会 加工品づくりとレストラン運営を学ぶ

2月29日、関市武芸川町の農村レストラン「つるや」において、第2回わかばマーク女性農業者研修会を開催し、女性若手農業者7名が参加した。特産品のうどんを打ちながら、つるや代表から「つるむらさきうどん」開発の経緯やレストラン開店・運営の苦労話を伺った。

農業普及課では、本研修会の開催、運営の支援をするとともに、今後とも若い女性農業者の能力が発揮され、地域農業の重要な担い手として活躍できるよう継続した支援を実施する予定である。

(地域支援第三係・横田京子)



【うどん打ちのコツを学ぶ】

県民みんなで育む農業・農村

■集落営農 各務原市各務須衛地区の集落営農法人化検討会

各務原市の各務須衛地区の自治会役員から、地域農業が崩壊する懸念を打開するため、次世代が地域農業を継承できる仕組みづくりを構築したい旨の相談がJAに寄せられた。

3月14日に、県農業会議、JAぎふ、農業普及課が自治会役員から相談内容の詳細を聞き取り、地域農業の維持、獣害対策ができる集落営農組織の設立に向けたアンケート調査、県内の中山間地の集落営農組織の視察を実施することを提案した。

農業普及課では、集落営農組織の設立支援に向け、各務原市とも連携しながら、今後も支援していく予定である。

(地域支援第二係・森 俊彦)



【集落営農検討会の様子】